

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立三瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

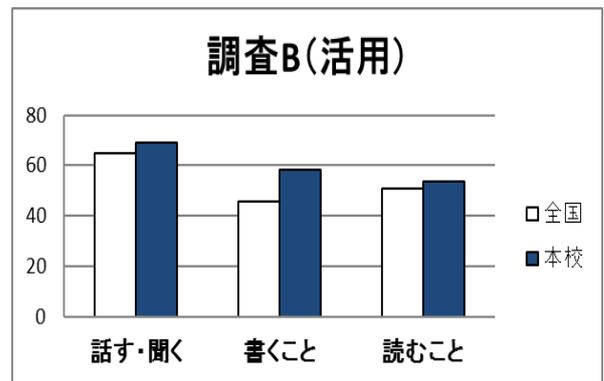
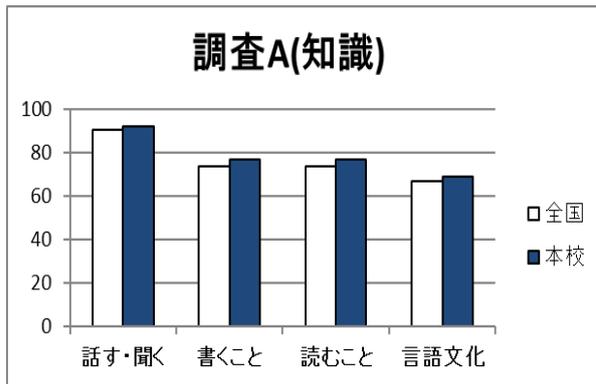
全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国正答率との比較



調査A(知識)の正答率は、全ての領域で全国平均を上回った。調査B(活用)についても全国平均を上回り、特に「書くこと」の領域は、10%以上上回った。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・立場を決めてスピーチ原稿を書く問題の正答率は、全国平均を上回った。話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べる等して考えをまとめることができている。しかし、司会の役割について考えたり、話し合いの参加者になって質問の意図を捉えたりする問題の正答率は、全国平均を下回った。司会者、提案者、参加者など役割を決めて話し合いを充実させる必要がある。

書く

・取材をして分かったことを取り入れて文章を書く問題の正答率は、全国平均を上回っているものの15%と低い。目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書くことができるようにする必要がある。

読む

・伝記を読んで、心がひかれた理由を考える問題の正答率は、全国平均を20%以上上回った。目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができている。

言語文化

・漢字の読み書きは、5問中4問が全国平均を上回っている。日常生活で使われている慣用句の意味を理解して使う問題の正答率も高い。漢字の読み書き等の練習を続けた成果だと考えられる。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 地域の読み語りボランティア「ホンホンさん」や中学部の読み語り、目標冊数の設定や図書館祭りなどを行い、本に親しむ児童の育成を目指しています。本年度より多読者の表彰を行っています。
- 授業では、「三瀬校学習スタイル(基本的な学習の進め方)」を使い、言語活動の充実に力を入れています。特に、自分の考えを表現したり意見交換したりする場を多く設定し、理解する力や表現する力、コミュニケーション力の向上を目指しています。
- 書くことへの抵抗感を減らすため、宿題で日記を取り入れていきます。

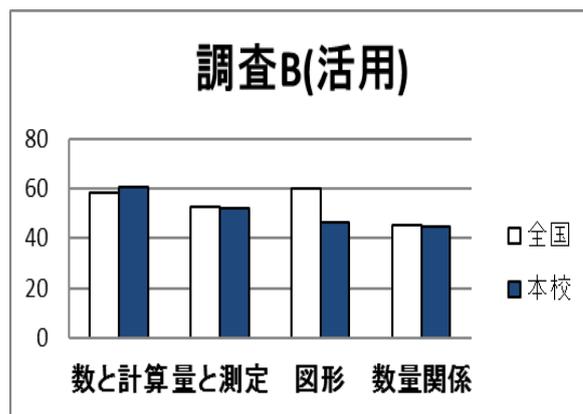
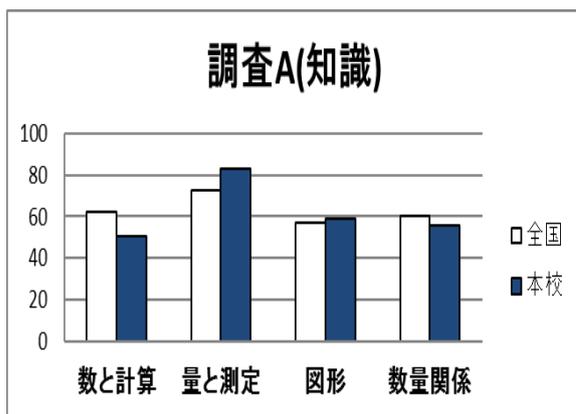
【ご家庭では】

- 音読は、登場人物の気持ちの変化や著者が伝えたいことなどを考えながら読むように声をかけてください。読解力や語彙力の向上に役立つと思います。また、分からない言葉があれば、辞書を使って調べるなど自主学習にも積極的に取り組ませてください。
- 家庭での読書や新聞を読むことを習慣化させ、できるだけ文字に触れる機会を増やしてください。

2 算数

(1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問う調査Aでは、「量と測定」「図形」は、全国平均を上回ったものの、「数と計算」「数量関係」は、全国平均を下回った。活用力を問う調査Bでは、「図形」が全国平均を大きく下回る結果となった。

(2) 成果と課題

数と計算

・小数のわり算、数の大小について問う問題の間違いが目立った。今後は、小数のわり算の練習をさせたり、数の大小について考えさせたりする必要がある。

量と測定

・座っている人とシートの広さから、混み具合を求める問題では、全国平均を20%近く上回った。単位量あたりの大きさの理解ができているといえる。

図形

・合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から、条件にあう図形を見つける問題、一つの点のまわりに集まった角の大きさの和が360度になることを記述する問題の正答率が、全国平均を下回った。今後は、角の大きさや辺の長さ等、図形の構成要素に着目して、図形を判断させたり、記述させたりする必要がある。

数量関係

・子ども達の書いたメモをもとに、どのようなことに着目してグラフを見ているのかを記述する問題の正答率が低かった。複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて考察、表現させるようにすることが大切である。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 記述式問題の正答率が低いことを受け、授業では、図や表、式などを利用し、一人一人に自分の考えをしっかりとらせ、ノートやホワイトボードに書かせます。
- 問題に対する自分の考えを発表する場、話し合う場を増やし、考えを共有させます。
- 朝のスキルタイムで、計算問題を中心としたプリント等を使い、算数の基礎・基本の定着を目指します。

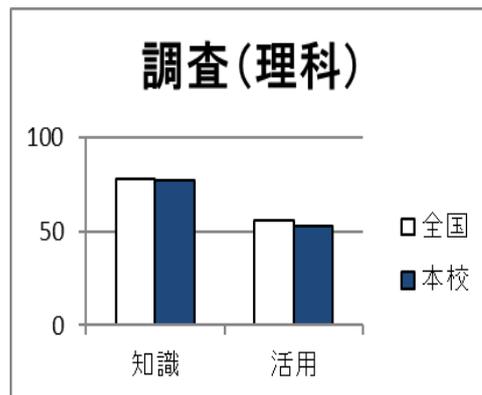
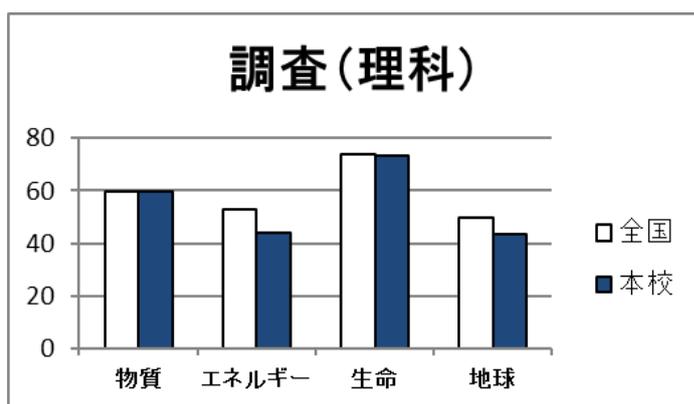
【ご家庭では】

- 家庭学習として計算ドリルや算数プリントを出しています。また、単元ごとにテストを行っています。持ち帰るプリントやテスト、ノートには必ず目を通してください。
- 算数に興味をもつには、「習ったことが生活の中で使えて便利だな、おもしろいな」と思う経験をさせることが一番です。料理をする時に、重さを量ったり、買い物をする時に、割り引いた金額を考えたりするなど、算数を日常の生活に生かす工夫が大切です。

3 理科

(1) 結果

全国正答率との比較



「物質」「生命」に関する問題は、全国平均とほぼ同じであったが、「エネルギー」「地球」に関する問題は、全国平均を下回った。主として「活用」する力を問う問題で全国平均を下回った。

(2) 成果と課題

物質

・2つの異なる実験方法から得られた結果をもとに、海水と水道水を区別する問題は、全員が正答し、全国平均を上回った。複数の実験結果を分析し考察することはできている。しかし、この実験結果をまとめて記述する問題の正答率は、全国平均を下回った。実験して分かったことについては、自分の言葉で書くことができるようにする必要がある。

エネルギー

・メダカの水温調節のために 太陽の位置関係や光電池など学んだことを基に考える問題の正答率は、全国平均を大きく下回った。学んだことを次の学習やものづくりに活用する力をつけるようにすることが今後の課題である。

生命

・野鳥のひなの観察方法を選ぶ問題の正答率は全国平均を上回った。しかし、人の腕が曲がる仕組みを答える問題の間違いが多かった。模型などを基にどの筋肉がちぢむか、ゆるむかを説明できるようにする必要がある。

地球

・土地の侵食について、考えた予想と同じ実験結果になるのはどれかを選ぶ問題の正答率は低く、全国平均を下回った。予想を確かめるためには、どのような実験をすればいいかを考えることができるようにする必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 実験をするときは、子ども達に実験方法を考えさせたり、予想を立てさせたりしてから実験するようにします。また、これまでに学んだことが活用できないかを考えさせます。
- 根拠や理由を示しながら、自分の考えを記述させたり、話し合わせたりするなど、言語活動を充実させます。
- デジタル教科書や教育番組を活用し、実験の手順等を視覚的に捉えることができるようにします。

【ご家庭では】

- 子どもが読書や日常生活の中で「不思議だな」「なぜ」と疑問を持った時には、一緒に図書館などに行って調べたり、インターネットで検索したりして、子どもが持った知的好奇心を大切に、膨らませてください。こうしたことの繰り返しが理科への興味・関心を高めていきます。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣等について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	84.6	94.5
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	61.6	77.0
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	77.0	88.8
今住んでいる地域の行事に参加していますか。	84.6	62.7
地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。	53.8	36.1
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	30.8	49.9

「早寝・早起き・朝ごはん」については、全国平均より低くなっている。規則正しい生活リズムの定着を目標とし、家庭の協力を仰ぎながら今後も継続して指導・啓蒙いくことが大切である。

地域行事や地域のボランティア活動への参加率は、全国平均に比べ、大きく上回っている。しかし、地域や社会をよくするためには何をすればいいかということまで考えている児童は少ない。

《家庭学習の様子》

調査項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に平日1時間以上勉強している。	77.0	66.2
学校の授業時間以外に平日30分以上読書をしている。	30.8	41.1
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	53.9	67.6
家で、学校の宿題をしていますか。	92.3	97.1
家で、授業の予習・復習をしていますか。	38.5	62.6

学習時間については、1時間以上勉強している児童の割合は、全国平均を上回っている。しかし、計画を立てて勉強したり、授業の予習・復習をしたりしている児童は、全国平均より少ない。30分以上読書をしている児童の割合も全国平均を下回っている。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 宿題は毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に出します。自主学习についても手本になる自学ノートを提示ながら定着を図ります。
- 読書の時間を増やし、保護者や中学生による読み聞かせ等を継続していきます。図書委員会による読み聞かせやイベントなどを行い、図書館利用を促し、読書習慣の定着につなげていきます。
- 学び合いを通して考えを深めたり、自分の言葉で学習をまとめたりさせる「三瀬校学習スタイル（基本的な学習の進め方）」を小中一貫で取り組み、中学校に入学してからの学習がスムーズにスタートできるようにします。
- 毎月の生活のめあてに対し、毎日振り返りを行うことで意識を高めるようにします。

【ご家庭では】

- 「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムが定着するように、ご家庭のご協力をお願いします。
 - ・一日を元気に過ごし、学習の効果を高めるためにも「朝ごはん」は、栄養のバランスを考えたものをしっかり食べて登校させるようにお願いします。
 - ・睡眠時間を確保するために、テレビ、ゲーム、インターネット等の使用については、ご家庭でルールを設けてください。
- 「三瀬っ子 家庭学習の手引き」をご覧になり家庭学習の目安やお勧めの学習メニューを参考に、自分で決めて学習するように励ましてください。中学校へ向けて自主学习にも取り組ませてください。